

From Ibigawa S A B O

越美山系砂防事務所では、平成24年10月1日に「深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図」を公表しました。揖斐川上流域の三大崩壊地である明治28年(1895年)のナンノ谷大崩壊や昭和40年(1965年)の徳山白谷(とくやましらたに)大崩壊、根尾白谷(ねおしらたに)大崩壊も深層崩壊によるものです。中でも「ナンノ谷大崩壊」は死者4名、流出家屋23戸と甚大な被害が発生しています。

崩壊土量 153万^m3の大崩壊

ナンノ谷大崩壊は、揖斐川町坂内川上(さかうちかわかみ)地先の坂内川右岸ナンノ坂で大雨の影響により発生した大規模崩壊(深層崩壊)です。濃尾地震の発生から4年後の明治28年8月5日の豪雨を契機に発生しており、地震の影響を受けたものと推測されています。崩壊は二度にわたって発生しており、推定崩壊土量約153万^m3(10tダンプトラック約30万台分)の土砂が坂内川を塞ぎ止め高さ約38mの天然ダムを形成しました。その後の8月11日に天然ダムが決壊し下流の川上・広瀬(ひろせ)・坂本(さかもと)地区で氾濫を起こしました【被害:死者4名、被災家屋23戸】



ナンノ谷大崩壊現在の様子

砂防施設により河床は安定し、崩壊地の植生は回復している

ナンノ谷天然ダムの様子(明治30年当時)

源頭部

ナンノ谷大崩壊の様子(明治30年当時)

現在のナンノ谷には、砂防堰堤や床固工が整備されており、土砂の流出を防止しています。また、ナンノ谷床固工群が整備されている一帯は、揖斐川町坂内地区で行われているバイクレースの開催地となっていることから坂内バイクランドと関連した整備が行われ、地域活性化に寄与しています。

エンデュロレースが開催される

10月14日(日)に、坂内バイクランドにおいて「第56回坂内4Hエンデュロレース」(主催:坂内バイクランド協会)が開催されました。ナンノ谷砂防公園やナンノ谷大崩壊地にコースが設定され、砂煙を上げながらバイクが疾走していました。また、10月20日(土)から21日(日)にかけては、「坂内2DAYS ENDURO」(主催:CLUB OFF事務局)が開催される予定です。



熱いバトルが繰り広げられていました

様々なマスコミで報道される

10月1日に公表しました「深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図」については、話題の関心の高さから新聞やTVニュース等で多数報道されました。



HNK ほっとイブニングぎふの取材を受ける白木調査・品質確保課長

なお、深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図の詳細は、下記URLより確認してください。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/etsumi/topics/sinnsouhoukai121001.pdf> (事務所HPへ)



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: ibigawa-sabo@beach.ocn.ne.jp